



台風第19号による 世田谷キャンパスの被災状況

学生部長(後援会事務局長)
工学部 医用工学科 教授 和多田 雅哉

後援会会員の皆様には、日頃から大学行事ならびに課外活動に対して温かいご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2019年10月の台風第19号による世田谷キャンパスの罹災に際しては、ご心配とご迷惑をおかけ致しまして、誠に申し訳ございませんでした。観測史上最強クラスの今回の台風は想定外の内水氾濫*を引き起こす結果となり、複数の建物で1階床上浸水および地下階への浸水により、大きなダメージを受けました。特に、地下階倉庫を利用していた課外活動団体(吹奏楽団、放送会、グリークラブ、鉄道研究部)は、甚大な被害を受けることとなり、吹奏楽団の楽器類、放送会の機材、グリークラブの楽譜、鉄道研究部のレイアウトなどが、冠水の影響で廃棄または使用不可となる状況でした。

罹災した翌日から教職員総出の復旧作業や学外からの支援により、約2週間後から授業は再開されましたが、一部ではまだ復旧作業が続いている状態です。復旧作業においては、危険な作業もなくなり安全が確保されるようになった頃から、自らの大学の復旧に加勢したいという体育会からのボランティア参加にも助けられました。大学にとっても大きな応援になったことをご報告させていただきます。

また、先の台風第15号においてもヨット部所有の艇が破損する被害が報告されています。これらの被害に対し、後援会理事会では課外活動団体への被害救済を目的とした支援を決定して頂きました。楽器類の修理や購入、必要機材の購入を含め、活動の継続を支援する資金として活用させて頂くことになりました。おかげさまで、各団体の活動も戻りつつあり、活発化してまいりました。ここに、改めて、後援会会員の皆様へ支援への御礼を申し上げます。ありがとうございます。

創立90周年を迎えた大学での学生生活を援助するとともに、大学の更なる発展のため引き続き、ご支援、ご協力を賜りたいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。



第11回 等々力祭

等々力を、みんなのhomeに!

第11回 東京都市大学 等々力祭実行委員会 会長
都市生活学部 都市生活学科 3年 松浦 千星

今年度の等々力祭は、テーマを「home」としました。そこには、等々力の地域性やキャンパスの特徴である距離の近さから生まれる“アットホームな温かさ”を活かしたいという気持ちと、居場所があるという安心感や大切さ、つながることのよさを感じていただきたく、1年間かけて等々力祭をつくり上げました。

目玉企画として2日目にはお笑い芸人の和牛、THIS IS パン、トニーフランクの3組による「お笑いライブ in TODOROKI」を実施いたしました。みんなが同じタイミングで笑うことができ、家族について再認識できる温かい空間をつくることができました。また、毎年恒例のバルーンリリース、来場者でつなげていく参加型全体装飾、アートメイク工房でのアートコーナー、来場者で一つの大きな地図を完成させる都市系企画など、一人の力では完成しない企画をたくさんつくりました。等々力祭の来場者にはお子様も多く、参加型の企画でたくさん楽しんでいただくことができました。

また、今年は世田谷祭の中止に伴い世田谷祭の企画や参加団体をなるべく受け入れるべく、4つのステージ団体と1つの企画を等々力祭で行いました。また、今年の世田谷祭のテーマ「COSMOS」に沿ってコスモスの花の装飾をキャンパスに施しました。世田谷祭と等々力祭が合同開催であるということも少しでも伝え残すことができたと感じております。

改めて、第11回等々力祭を開催するにあたり、大学関係者の皆さま、地域の皆さま、企業の皆さま、参加団体の皆さま、上部特殊団体の皆さま、そのほか多くの方々のご協力により等々力祭は成功することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、ご来場いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

等々力祭は、あと2年で終了します。来年度は、セミファイナルの年です。今までの11回分の等々力祭の成果を最大限活かしつつ最後の年に向けて着実にパワーアップした等々力祭をお見せいたしますので、来年度もぜひお越しください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

* 内水氾濫とは、市街地に降った雨が短時間で排水路や下水管へ一挙に流入し、雨水処理能力を超えてあふれる。あるいは川の水位が上昇して雨水をポンプで流さずに市街地の建物や土地、道路などが浸水することを言う。(ハザードラボより引用)